

日本小児感染症学会若手会員研修会第4回安曇野セミナー

若手セミナーを振り返って

森内浩幸*

学術集会前日から会期中にかけて開催する「教育セミナー Basic Course」と並び、晩夏～初秋の頃に安曇野で開催する「夏季セミナー」も本学会の教育活動としてしっかり定着してまいりました。Interactive な要素を取り入れつつも、多くの内容を「教え」ていく「教育セミナー Basic Course」に対し、「夏季セミナー」では「自ら調べ、グループで討論し、まとめて発表する」ことを目指しています。ちょっと戸惑いつつも初対面どうしでのメールのやりとりからスタートし、最後はほぼ徹夜の熱心な議論のなかでまとめあげた成果が、本誌のなかで紹介されています。

どちらのセミナーもさらに改善していく余地はあると思いますけれど、幸い、参加者からは非常に高い評価を得ております。それに後押ししてもらって、われわれもより一層頑張っただけで学会における教育活動に力を注いでいきたいと思っております。

よくいわれることですが、「教える」ことほど「学ぶ」ことができる機会はありません。われわれ

チューターも教えることによって学んでいます。ここで学んだ若い学会員が感染症に苦しむ子どもたちを助けるために一生懸命働き、そして彼らもまた、やがて自分たちの後輩を教えていくようになるでしょう。

そのような「縦のつながり」に加え、参加者は同世代の仲間たちとの熱い議論のなかで「横のつながり」を作ることもできたと思います。いろいろなことを相談し合うことができ、一緒に取り組むことができる仲間を得ることは今後の大きな財産になります。たった1泊2日、正味24時間の滞在ではありましたが、参加者が今後につながる大切なことをつかんでくれたことを確信しています。

来年はちょっと場所を移し、この夏季セミナーを福島で開催することにしていきます。地理的な問題でこれまで参加することが難しかった東日本の方々を中心に、また熱くワクワクする交流をもちたいと思っております。ぜひご参加ください！

* * *

* 日本小児感染症学会研究教育委員会委員長